

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」						学科名	建築科
科目番号	0101	科目名	海外研修			科目区分	
科目群	一般教養	担当講師	校長			履修区分	選択
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	実習
教科書	無し			参考書	無し		
成績評価	報告書 100%						

1. 授業概要

年度末の3月に海外へ10日間の語学研修を実施
------------------------

2. 到達目標

知識見聞を広め、グローバル社会を理解する。
-----------------------

3. 授業計画

後期	
1	<p><b>【研修内容】</b> 前年度実績 変更有</p> <p>渡航予定地 オーストラリア アデレード</p> <p>研修先 ENGLISH COLLEGE OF ADELAIDE</p> <p>語学研修時間 9:00~16:00 6時間×5日間 のべ30時間</p> <p>宿泊 9日間 ホストファミリー宅</p> <p>単位認定に係わる認定時間 語学研修30時間 文化交流90時間 120時間</p> <p>学校としての成績評価 評価は報告書内容による</p> <p>学校としての単位認定基準 帰国後3週間以内に報告を提出した者 認定単位2単位</p>

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0201	科目名	建築計画A	科目区分	兼任
科目群	建築計画	担当講師	原田智章	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	4
教科書	初学者の建築講座 建築計画		教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）		
成績評価	4回の定期試験と授業内で出す課題点、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

1. 授業概要

環境、法規、寸法、歴史などの基礎知識をベースとして、独立住宅・集合住宅・事務所の建築計画の理論を学び、主に住空間・オフィス空間についての知識を幅広く身につける。

2. 到達目標

住空間・オフィス空間に関する知識・理論を、設計の実践に生かすことができる。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	第1章 計画と設計
3	建築計画における調査、モジュール、第8章 自然現象の知覚
4	第8章 視覚と建築
5	第8章 視覚と建築
6	第8章 視覚と建築・寒暑感覚と建築
7	第8章 寒暑感覚と建築
8	第8章 寒暑感覚と建築
9	第8章 聴覚と建築
10	第8章 聴覚と建築・近代建築三大巨匠の比較／考察
11	まとめ講義、問題演習
12	第2章 居住施設の計画（住洋式と住宅の変化）（戸建住宅）
13	第2章 居住施設の計画（戸建住宅）
14	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のゾーニング（その1）
15	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のゾーニング（その1）
16	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 解説・プレゼン：戸建住宅のゾーニング（その1）
17	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 夏季課題（任意提出）：住宅の住まい方の特徴をつかむ
18	課題発表、まとめ
19	ガイダンス（前半振り返り、後半授業概要説明）
20	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のプランニング（その2）
21	第2章 居住施設の計画（戸建住宅） 課題：戸建住宅のプランニング（その2）
22	戸建住宅の事例研究 解説・プレゼン：戸建住宅のプランニング（その2）
23	課題発表、まとめ
24	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
25	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
26	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
27	第2章 居住施設の計画（集合住宅）
28	第2章 居住施設の計画（集合住宅） 課題（任意提出）：集合住宅のユニットプラン（その1）
29	集合住宅の事例研究

3 0	課題発表、まとめ
3 1	第2章 居住施設の計画（細部計画）
3 2	第2章 居住施設の計画（細部計画） 階段
3 3	第6章 規模計画と経済効率・事務所ビルの変遷
3 4	第6章 事務所ビルの計画・事務所ビルの各部計画
3 5	<u>事務所ビルの事例研究</u>
3 6	<u>（エコロジカル建築 エコロジカル建築の事例研究）</u>

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0202	科目名	建築計画B	科目区分	兼任
科目群	建築計画	担当講師	原田智章	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	初学者の建築講座 建築計画		教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）		
成績評価	4回の定期試験と授業内で出す課題点、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

1. 授業概要

多様な建築用途について、各用途における理論や考え方を身に付ける。
----------------------------------

2. 到達目標

各用途に関する知識・理論を、設計の実践に生かすことができる。
--------------------------------

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	第6章 百貨店・スーパーマーケットの計画
3	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画
4	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画 課題：飲食店のプランニング
5	第6章 店舗…物販店／飲食店の計画 課題：飲食店のプランニング
6	課題発表、まとめ 解説・プレゼン：飲食店のプランニング
7	第3章 幼稚園の計画
8	第3章 幼稚園の計画
9	第3章 幼稚園の計画 幼稚園の事例研究
10	第3章 小学校・中学校の計画
11	第3章 小学校・中学校の計画
12	第4章 学校の事例研究 生活圏とコミュニティ施設 図書館の計画
13	第4章 図書館の計画 課題：図書館のプラン解析
14	第4章 図書館の計画 図書館の事例研究 解説：図書館のプラン解析
15	課題発表、まとめ
16	第4章 美術館の計画
17	第4章 美術館の計画
18	美術館の事例研究 課題（任意提出）：美術館の見学・レポート
19	ガイダンス（前半振り返り、後半授業概要説明）
20	第4章 コミュニティセンター・公民館の計画
21	第5章 高齢社会と建築計画 高齢化社会の今後の都市開発
22	第5章 病院の計画
23	第5章 病院の計画 高齢者施設の計画
24	第5章 高齢者施設の計画
25	病院・高齢者施設の事例研究
26	WCの計画（P.35参考） 課題：WCの計画
27	WCの事例研究 解説・プレゼン：WCの計画
28	課題発表、まとめ
29	第6章 劇場・音楽ホール of 計画
30	第6章 劇場・音楽ホール of 計画、事例研究

3 1	第6章 劇場・音楽ホールの計画	課題・解説：オーデトリアムのプラン解析
3 2	第6章 駐車場の計画 (P. 133 参考)	課題：駐車場のレイアウト
3 3	第7章 外部空間の把握	解説：駐車場のレイアウト
3 4	課題発表、まとめ	
3 5	第7章 外部空間の計画手法	
3 6	建物のリサイクル (リノベーション、コンバージョン)、事例研究	

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0203	科目名	建築史	科目区分	専任
科目群	建築計画	担当講師	関村啓太	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2
教科書	大橋竜太ほか『コンパクト版 建築史』		教材・参考書 配布資料		
成績評価	中間試験30%、期末試験30%、レポート30%、その他平常点10%で総合的に評価する。				

1. 授業概要

日本及び西洋に分けて近代建築史までの概要を習得させる。様式史、技術史的観点から解説するとともに、現代建築への影響など、写真、図表等を用いてビジュアルに講義し、その意義について理解する。

2. 到達目標

建物の発生から、各地の建築作品の歴史を知ることにより、建築のあり方について考察できるようにする。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	建築史とはなにか（概論）
3	日本の古代建築（寺院・神社）
4	日本の古代建築（住宅・都市）
5	日本の中世建築（寺院・神社・住宅）
6	日本の近世建築（城郭・住宅）
7	日本の近世建築（茶室、寺院）
8	東洋の建築（イスラーム、中国建築の概説）
9	映像『日本の近代建築の夜明け 旧岩崎邸庭園』上映ならび解説
10	日本建築史まとめ
11	ギリシャ建築・ローマ建築
12	ビザンチン建築・ロマネスク建築・ゴシック建築
13	ルネサンス建築・バロック建築
14	近代建築（産業革命から19世紀までの建築）
15	近代建築（モダニズム建築）
16	日本の近代建築（幕末から1950年代まで）
17	ヴァナキュラー建築の世界
18	西洋建築史・近代建築史まとめ

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0204	科目名	都市計画	科目区分	専任・実務系教員
科目群	建築計画	担当講師	小川 貴之	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2
教科書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅春他 彰国社			授業形態	必修
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。  
講義形式を基本とするが、KJ法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

### 2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。

### 3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
10	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
11	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
12	関連法規事例紹介、まとめ
13	諸外国の都市計画制度
14	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
15	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
16	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
17	テーマ別まちづくり-1
18	テーマ別まちづくり-2

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0205	科目名	インテリア計画	科目区分	兼任
科目群	インテリア	担当講師	益田あけみ	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2
教科書	インテリア計画の知識		教材・参考書		
成績評価	授業参加と演習を総合的に評価する				

1. 授業概要

本来、建築とインテリアをまったく切りはなして考えることはできない。建築を扱う際に無視できない、インテリアの基礎知識を身につける。

2. 到達目標

人間工学に基づく基本的な事項をしっかりと学び、建築計画に生かせるようにするとともに、図面としては、平面図・展開図の表現と読み取りを修得する。

3. 授業計画

後期	
1	導入 講師自己紹介／建築に占めるインテリアの位置づけ／今後の授業計画
2	第1章、2：インテリアと住生活 ①②
3	第1章、3：インテリアと人間 人間の形態人体寸法の実測、教室の実測、
4	第1章 3：インテリアと人間 視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚
5	平面図、展開図、天井伏せ図の説明
6	展開図、天井伏図作成演習
7	計画の基本寸法、モジュール
8	平面プランの作成
9	作成した計画案の展開図、天井伏せ図、断面図
10	第1章3：インテリアと人間 動作
11	第1章3：インテリアと人間 行動、椅子、机、ベッド
12	第2章3：インテリアエレメント 家具
13	第1章4：光 色
14	第1章6：インテリア構法、床、壁
15	第1章6：天井、開口部、 法規関連：シックハウスと換気
16	参考資料により、内法、造作、和風造作
17	第2章3：インテリアエレメント 照明器具 ウインドウトリートメント
18	第1章1：インテリアの歴史



科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」						学科名	建築科
科目番号	0301	科目名	環境工学			科目区分	兼任
科目群	建築設備	担当講師	加藤 諭			履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	初学者の建築講座 建築環境工学（第三版）		教材・参考書：プリントの配布				
成績評価	試験（中間及び期末試験）60% その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築環境工学に関する基礎的な考え方、理論を理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した環境工学全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	環境工学の概要・SI単位系（本授業で取り上げる単位等）
3	採光①：明視の条件・光の単位・輝度対比・グレア・昼光率・均斉度・建物の採光特性・昼光利用等
4	採光②：人工採光（照明）・配光・照度計算・照明方式・色温度・照度基準・各種光源の特性と種別等
5	外部環境①：日較・年較差・テカテカ - 卓越風都市環境と地球環境、ヒートアイランド、温暖化、オゾン層破壊等
6	外部環境②：日照・日射・日影・太陽の高度と方位角・日照時間と可照時間・日照の調整・南中時等
7	採光、外部環境まとめ、問題演習
8	色彩①：色の三属性・色の三原色（混色）・マンセル表色系・オストワルト表色・XY表色・色彩心理効果等
9	色彩②：色の表れ方・演色性・色彩対比・色彩調整・安全色・建築及びインテリアへの色彩応用等
10	音響①：音の三要素・音の伝わり方・音の速度・音の合成・可聴域・等ラウドネス曲線・カテルパーティ効果等
11	音響②：明瞭度・了解度・残響時間・許容騒音レベル・建物の音響計画・遮音性能・防音と吸音等
12	色彩、音響まとめ、問題演習
13	自然換気：室内の空気環境・大気汚染物質・室内空気汚染原因・汚染物質と必要換気量・空気齢等
14	自然換気：自然換気特性（重力、風力）・各種換気算定（火気使用、シックハウス、法令）、機械換気3種等
15	熱環境①：熱移動の基本・熱伝導率・熱貫流率と熱貫流抵抗・熱放射・中空層と熱抵抗等
16	熱環境②：日射による熱への影響・相当外気温度差・日射遮蔽係数・建物の熱特性・壁の熱容量等
17	熱環境③：湿り空気・露点温度（結露点）・空気線図・結露現象・外部結露と表面結露・断熱効果等
18	換気、熱環境まとめ 問題演習

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0302	科目名	建築設備 A	科目区分	兼任
科目群	建築設備	担当講師	加藤 諭	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教科書	図解建築設備の知識 (改訂3版)		教材・参考書：プリントの配布		
成績評価	試験 (中間及び期末試験) 60% その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

1. 授業概要

建築設備の各項 (衛生・空調・電気) について用語・方式・法的基準・施工技術等について理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した建築設備全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築設備の概要：設備業態・設備資格・建築基準法との関連・設備と躯体関連
3	給水設備①：上水の概要・戸建住宅等の給水・給水圧の規定値・給水器具の分類・関連用語の解説
4	給水設備②：給水方式 (5方式)・受水槽の構造及び設置規定・受水槽の容量算定 (給水計算)
5	給水設備③：給水ポンプの構造と種別・給水ポンプ能力の算定・給水配管材 (口径と配管抵抗)
6	給湯設備：給湯方式・給湯器の構造と種別・出湯号数・電気式温水器の仕組み・給湯配管材
7	排水設備①：排水方式 (合流・分流)・トラップの構造と規定値・トラップの封水破壊と保護・排水勾配
8	排水設備②：排水通気方式 (ループ通気と伸張通気)・排水処理・浄化槽の構造と法的規定・排水管
9	排水設備③：特殊排水処理 (厨房排水など)・雨水排水処理・排水桝の種別・排水槽の構造
10	衛生器具設備：衛生器具種別と特性・衛生器具の機能性
11	給排水設備まとめ、問題演習
12	ガス設備：ガス種別 (LPG と LNG)・ガス圧区分・ガス漏れ警報器の設置規定・ガスの安全使用
13	消火設備①：消防法の構成・屋内消火栓、屋外消火栓の各構造と法令規定
14	消火設備②：スプリンクラー、ドレンチャー、パッケージ消火設備の各構造と法令規定
15	消火設備③：連結送水管、連結散水、特殊消火設備 (ガス系・泡・粉末・水噴霧) の法令規定
16	衛生設備の配管方式①：PS (パイプスペース) の計画、MB (メーターボックス) の計画
17	衛生設備の配管方式②：配管方式 (床上・床下・さや管ヘッダ方式)・衛生配管種別
18	ガス、消火設備まとめ、問題演習

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0303	科目名	建築設備B	科目区分	兼任
科目群	建築設備	担当講師	加藤 諭	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教科書	初学者の建築講座 (第三版)	建築設備	教材・参考書：プリントの配布		
成績評価	出席率・中間及び期末試験の総合評価				

1. 授業概要

各種設備の役割や機能性、必要となる機器の種別や設置、配管スペース等について理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した建築設備全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要）
2	換気設備：機械換気の目的・機械換気方式・ファン類の種別・法令上の換気計算・全熱交換機等
3	排煙設備：建築排煙と消防排煙の目的・機械排煙方式・法令上の排煙規定・付室加圧給気防煙等
4	空調設備①：空気調和の基本・室内温熱環境・空気の状態変化・空調（冷暖房）負荷等
5	空調設備②：空調用熱源設備・冷凍機の特性と種別・ボイラーの特性と種別・冷却塔・ヒートポンプ
6	空調設備③：空気調和機（AHU・FCU）の特長・空調配管及びダクト、制気口、ダンパの役割
7	空調設備④：空気調和方式（単一ダクト、二重ダクトなど）・個別空調（パッケージ空調）等
8	換気・空調設備まとめ、問題演習
9	電気設備①：電気設備の概要・関連法規・電気基礎理論・受電・変電（キュービクル）・幹線等
10	電気設備②：動力設備・分電盤（動力盤）の構成・電力量計・回路の構成・自家発電及び蓄電池等
11	電気設備③：照明（電灯）コンセント設備・コンセントとスイッチの種別・照明器具と照明方式等
12	電気設備④：弱電設備（通信、LAN、ITV、TV共聴他）・避雷設備・自動制御設備等
13	防災設備①：非常照明（建基法）及び誘導灯、非常コンセント・無線通信補助設備（消防法）の基準等
14	防災設備②：自動火災報知・非常警報・非常放送・漏電火災警報器設備（消防法）の設置基準等
15	搬送設備：エレベータ及びエスカレータの構造、法令基準・その他搬送設備等
16	省エネルギー設備①：建築物省エネ法基準・PAL*と一次消費エネルギー係数・ライフサイクルコスト等
17	省エネルギー設備②：コージェネレーション・蓄熱槽・太陽光発電・燃料電池等
18	電気・防災設備まとめ、問題演習

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0401	科目名	建築法規	科目区分	兼任
科目群	建築法規	担当講師	河村 春美	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	初学者の建築講座（建築法規）		教材・参考書：建築関係法令集		
成績評価	試験（中間及び期末試験）その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。				

1. 授業概要

建築基準法の内容全般を理解する。
------------------

2. 到達目標

実務上必要な知識とともに、二級建築士試験レベルに必要とされる部分を重点的に習得する。
--

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築基準法の概要、法令用語の使い方
3	用語の定義－1（建築物、特殊建築物等）
4	用語の定義－2（耐火建築物、建築等）
5	面積と高さ－1（敷地面積、建築面積等）
6	面積と高さ－2（容積対象延べ面積、高さ、階数等）
7	問題演習
8	一般構造－1（採光）
9	前期中間試験前まとめ
10	一般構造－2（換気）
11	一般構造－3（天井高さ、便所等）
12	構造強度－1（木造一般）
13	構造強度－2（木造軸組み計算）
14	軸組み計算問題演習
15	構造強度－3（その他の構造）
16	耐火・防火（耐火建築物、準耐火建築物）
17	防火地域・準防火地域
18	前期期末試験前まとめ
19	授業ガイダンス（前半振り返り、後半授業概要説明）
20	防火区画
21	避難施設－1（2階段、避難階段等）
22	避難施設－2（排煙設備、非常用照明等）
23	道路と敷地
24	用途地域
25	建ぺい率
26	容積率－1（道路幅員による容積率の算定等）
27	問題演習
28	後期中間試験前まとめ
29	容積率－2（特定道路による容積率の算定等）
30	高さ制限－1（絶対高さ、道路斜線等）

3 1	高さ制限－2（道路斜線、2方向道路等）
3 2	高さ制限－3（隣地斜線、北側斜線）
3 3	問題演習
3 4	確認申請、建築手続き－1（確認申請等）
3 5	確認申請、建築手続き－2（建築手続き等）
3 6	後期期末試験前まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0501	科目名	構造力学 I		科目区分	兼任	
科目群	建築構造	担当講師	殿廣 泰史		履修区分	講義	
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点や授業への貢献度20%						

1. 授業概要

構造物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計する上で必要な基礎的な事を学ぶ。

2. 到達目標

静定構造物において力のつり合いを用い、どの部分にどのような力が生ずるか解けるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	1章 構造物に働く力 1. 建築物に働く力 1)色々な建築物 2)働く力 3)建築物の表現
3	2. 力の基本 1)力 1-1力の表示 1-2力のモーメント 1-3偶力および偶力のモーメント
4	2)力の合成と分解 2-1一点に働く力の合成・分解
5	2-2平行な力の合成・分解 2-3バリエーションの定理
6	2-4平行でない数力の合成
7	3)力の釣合い 1-1一点に働く力の釣合い 1-2作用点の違う力の釣合い
8	3. 構造物と荷重および外力 1. 支点と節点 1-1支点 1-2節点
9	2)荷重および外力 2-1種類と表示 2-2作用のしかた
10	4. 安定・静定 1)構造物の安定・不安定 2)構造物の静定・不静定 3)判別式
11	5. 反力 1)反力 2)反力の求め方
12	例-1、例-2
13	例-3、例-4
14	問題演習、まとめ講義
15	2章 静定構造物の部材に生じる力 1. 構造物に生じる力
16	1)構造物に生じる力の種類 1-1軸方向力 1-2せん断力 1-3曲げモーメント
17	2)部材に生じる力の求め方 2-1軸方向力 2-2せん断力・曲げモーメント
18	問題演習、まとめ講義
19	授業ガイダンス（前半振り返り、後半授業概要説明）
20	3)部材に生じる力の表し方 1-1軸方向力図 1-2せん断力図 1-3曲げモーメント図
21	2. 静定梁 1)単純梁 1-1集中荷重 1-2荷重とせん断力と曲げモーメントの関係
22	1-3等分布荷重 1-4等変分布荷重
23	1-5モーメント荷重 2)片持梁 例-1・例-2
24	3. 静定ラーメン 1)片持梁系ラーメン 例-1
25	2)単純梁系ラーメン 例-1
26	3)3ピン式ラーメン 例-1
27	問題演習、まとめ
28	4. 静定トラス 1)トラス部材に生じる力
29	2)節点法 2-1図式解法 例-1
30	2-2クレモナの図解法 例-1

3 1	2-3 算式解法 例-1
3 2	3) 切断法 例-1
3 3	4) トラス部材に生じる力の性質
3 4	二級建築士試験過去問題演習-1
3 5	二級建築士試験過去問題演習-2
3 6	全体まとめ講義

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0502	科目名	構造力学Ⅱ		科目区分	兼任	
科目群	建築構造	担当講師	崎田 由紀		履修区分	講義	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	4回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

### 1. 授業概要

不静定構造物の応力の求め方を中心に実務に必要な荷重算定・応力算定などの構造計算の基礎を習得する。同時に、構造力学1の復習を行うことで一級、二級建築士試験の力学範囲を理解する。さらに構造設計と関連づけた授業を行うことで実務との関連を意識させる。

### 2. 到達目標

一般的に実設計でも用いられる不静定構造物の応力分布を求める方法（一級建築士資格試験の出題範囲含む）を習得すること。フレーム構造物の崩壊の仕方、そのときの荷重を求める手法を知ること、より丁寧な構造設計が可能となることを理解する。木造の構造計算の概要を理解する。

### 3. 授業計画

前半	
1	授業ガイダンス（授業概要説明）
2	不静定構造とは何か。免震構造ビデオ
3	鉛直荷重時応力算定（剛比）
4	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法手順説明）
5	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法例題1）
6	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題1）
7	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題解説）
8	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題2・解説）
9	まとめ講義
10	試験の復習
11	水平荷重時応力算定（D値法手順説明）
12	水平荷重時応力算定（D値法例題）
13	水平荷重時応力算定（D値法演習問題1）
14	水平荷重時応力算定（D値法演習問題2）
15	一級建築士例題（固定モーメント法・D値法）
16	崩壊荷重 全塑性モーメント 演習
17	崩壊荷重 演習
18	まとめ講義
19	授業ガイダンス（前半振り返り、後半授業概要説明）
20	試験の解説・DVD
21	構造力学1の復習（反力）
22	構造力学1の復習（応力）
23	構造力学1の復習（トラス）
24	構造力学1の復習（材料力学）
25	構造力学1の復習（座屈）
26	構造力学1の復習（総復習）



27	構造力学1、2 総合問題
28	二次設計（層間変形角、偏心率）
29	二次設計（保有水平耐力の検討 例題）
30	まとめ講義
31	木造の構造計算（壁量例題）
32	木造の構造計算（風例題）
33	木造の構造計算（つりあいのよい壁量例題）
34	自分の設計図面の構造検討
35	自分の設計図面の構造検討
36	検討結果発表、解説

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0503	科目名	材料力学		科目区分	兼任	
科目群	建築構造	担当講師	殿廣 泰史		履修区分	講義	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2回の定期試験、その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

部材の断面を安全でかつ経済的なものとなるよう、形や大きさを決める際の構造材料の力学的性質などについて理解する。

2. 到達目標

部材に生ずる力に対して、安全でかつ経済的に部材を設計する基本的解法を習得する。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	3章 部材の性質と応力度 1. 断面の性質 1) 断面一次モーメントと図心
3	2) 断面二次モーメント
4	3) 断面係数
5	4) 断面二次半径 5) 断面の主軸
6	問題演習・解説
7	2. 構造材料の力学的性質 1) 応力度 1-1 垂直応力度
8	1-2 せん断応力度 2) ひずみ度 2-1 縦ひずみ度 2-2 横ひずみ度 2-3 せん断ひずみ度
9	3) 弾性体の性質 3-1 弾性・塑性・弾性係数 3-3 ヤング係数 3-4 せん断弾性係数
10	4) 材料の強さと許容応力度 4-1 応力度-ひずみ度曲線 4-2 許容応力度
11	3. 部材に生ずる応力度 1) 曲げモーメントを生ずる部材 1-1 梁の曲げ応力度
12	1-2 梁のせん断釣合い 1-3 梁のせん断応力度
13	1-4 梁の主応力度 1-5 曲げ材の設計
14	問題演習・解説
15	2) 引張力を生ずる部材
16	3) 圧縮力を生ずる部材 3-1 棒状部材の座屈 3-2 長柱公式
17	3-3 圧縮材の設計 3-4 偏心荷重を受ける圧縮材
18	問題演習・解説

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科		
科目番号	0504	科目名	鉄筋コンクリート構造		科目区分	兼任	
科目群	建築構造	担当講師	殿廣 泰史		履修区分	講義	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）60%、課題25%、平常点や授業への貢献度15%						

1. 授業概要

鉄筋コンクリートとは、建築物の骨組を構成する構造材料のうち、主要な材料の一つである。本講では鉄筋コンクリート構造の力学的特性を学び、それらを踏まえた設計法の基礎知識を身につける。

2. 到達目標

鉄筋コンクリート構造の基礎的な許容応力度設計ができるようになる。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス
2	鉄筋コンクリート造の特徴：材料特性など
3	鉄筋コンクリート造の特徴：力学特性など
4	RCラーメン構造 スラブの規定等概略
5	RCラーメン構造 片持ちスラブ主筋の計算解説
6	RCラーメン構造 四辺固定スラブ主筋の計算解説
7	RCラーメン構造 梁の規定等概略
8	RCラーメン構造 梁主筋の計算解説
9	RCラーメン構造 梁帯筋の計算解説
10	RCラーメン構造 梁の総合問題計算解説
11	講義まとめ、問題演習
12	RCラーメン構造 柱の規定等概略
13	RCラーメン構造 柱主筋の計算解説
14	RCラーメン構造 柱帯筋の計算解説
15	RCラーメン構造 柱の総合問題計算解説
16	RCラーメン構造 基礎の規定等概略
17	RCラーメン構造 基礎の計算解説
18	講義纏め、問題演習

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0505	科目名	鉄骨構造		科目区分	兼任	
科目群	建築構造	担当講師	佐藤 まりえ		履修区分	講義	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

構造設計の概要と構造物に作用する荷重・外力の種類学び、鋼構造に用いられる鋼材の種類や特性を理解する。

2. 到達目標

鋼構造の知識の習得と共に、接合部および主要な部材を決定するまでの方法論を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	5章 構造設計の考え方 1. 構造設計の概要 1) 構造設計
3	2) 構造設計の流れ
4	3) 耐震規定「3.」
5	2. 荷重および外力の計算 1) 荷重の種類 2) 荷重の組合せ
6	7章 鋼構造 1. 鋼構造 1) 概要 2) 鋼材 3) 許容応力度
7	2. 許容応力度設計 1) 接合部「8.」 1-1 高力ボルト
8	1-2 溶接
9	2) 引張材の設計「4.」 2-1 設計式 2-2 有効断面積
10	2-3 設計手順
11	3) 圧縮材の設計「5.」 3-1 設計式 3-2 許容圧縮応力度
12	3-3 設計手順
13	4) 部材の設計 4-1 応力と応力度 4-2 幅厚比
14	5) 梁の設計「6.」 5-1 形鋼梁の設計 5-2 許容曲げ応力度
15	5-3 形鋼梁の設計手順
16	6) 柱の設計「7.」 6-1 形鋼柱の設計
17	6-2 形鋼柱の設計手順
18	講義まとめ、演習問題

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0601	科目名	建築施工	科目区分	専任・実務経験教員
科目群	建築施工	担当講師	関村啓太	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	雨宮幸蔵ほか『誰でもわかる建築施工(改訂2版)』彰国社 (一社)日本建設業連合会編『施工がわかるイラスト建築生産入門』彰国社		教材・参考書		
成績評価	前期中間試験 22.5%、前期期末試験 22.5%、後期中間試験 22.5%、後期期末試験 22.5%、平常点 10%				

### 1. 授業概要

建築物の施工法を包括的にしめし、その手順を習得する。

### 2. 到達目標

建築物の各種工事の手法について、総合的に理解する。

### 3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築施工のあらまし
3	建設業の変遷・施工法の変遷
4	請負契約・直営と請負契約・施工者の選定
5	入札・談合
6	見積方式・工事計画
7	工事計画の進め方・工程表
8	ネットワーク工程表
9	仮設工事・登り栈橋
10	各種足場・地下工事
11	土工事
12	山留め
13	杭工事・既製杭
14	場所打ち杭
15	各種杭工法
16	鉄筋コンクリート工事・鉄筋の加工
17	構造図の見方・圧接継ぎ手
18	講義まとめ
19	授業ガイダンス
20	型枠工事
21	場所打ちコンクリート工事・コンクリートの品質
22	各種コンクリート製品工事・PC・コンクリートブロック・ALC
23	鉄骨系工事・工場加工
24	現場作業
25	木質系工事・材料・金物
26	造作工事
27	枠組み壁工法
28	中間試験前講義まとめ

29	内装仕上げ工事・防水工事・各種防水
30	アスファルト防水
31	シーリング工事
32	タイル工事
33	石工事
34	屋根工事
35	左官工事
36	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0602	科目名	建築材料	科目区分	専任
科目群	建築生産	担当講師	関村啓太	履修区分	講義
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	4
教科書	野口貴文ほか『ベーシック建築材料』彰国社		教材・参考書		
成績評価	前半中間試験 22.5%、前半期末試験 22.5%、後半中間試験 22.5%、後半期末試験 22.5%、平常点 10%				

1. 授業概要

建築を構成する材料を包括的にしめし、その性質を習得する。
------------------------------

2. 到達目標

建築設計を行うために使用する建築材料の特性について正しく理解し、素材の選択ができるようにする。
---

3. 授業計画

後期	
1	概論・規格
2	木材①
3	木材②
4	木材③
5	コンクリート①
6	コンクリート②
7	コンクリート③
8	鋼材①
9	鋼材②
10	鋼材③
11	非鉄金属
12	石材
13	タイル・レンガ
14	プラスチック
15	防水材料
16	ガラス
17	前期講義まとめ
18	前期確認試験
19	屋根材料
20	左官材料
21	内装材①
22	内装材②
23	断熱材料
24	各種金物
25	衛生陶器
26	システム
27	石こうボード
28	畳・繊維製品
29	接着剤
30	新素材①

3 1	新素材②
3 2	産業廃棄物
3 3	仕上表の読み方
3 4	施工図（割付図）の読み方
3 5	後期講義まとめ
3 6	後期確認試験



科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0603	科目名	建築構法	科目区分	兼任
科目群	建築生産	担当講師	足立 真輝・早川 慶太	履修区分	講義・演習
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	4
教科書	建築構法 彰国社		教材・参考書		
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。				

1. 授業概要

建築物の基礎的な構成と構造方式を学ぶ。建築物の構法が選択される背景や意図をさまざまな視点から学ぶ。

2. 到達目標

構法という視点で建築物を観たり考えたり出来るようになる。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	構法という視点
3	躯体構法 (1)
4	躯体構法 (2)
5	躯体構法 (3)
6	震災と構法
7	戦後復興と構法 -1
8	戦後復興と構法 -2
9	フィールドワーク 「東京駅見学」
10	フィールドワーク 続き
11	オリンピックと構法 -1
12	オリンピックと構法 -2
13	住宅と構法 -1
14	住宅と構法 -2
15	環境と構法 -1
16	環境と構法 -2
17	デザインと構法 -1
18	デザインと構法 -2
19	オリエンテーション (後半授業概要説明)
20	模型制作ツールの使用方法解説
21	立方体の作成 (基礎的立体造形の訓練)
22	立方体の輪郭を意識した自由造形①
23	立方体の輪郭を意識した自由造形②
24	様々な屋根の表現手法 (屋根伏図と立面図から立体像を読み取る訓練)
25	方形屋根の模型作成
26	複雑な屋根形状の模型作成
27	基本設計と構法 (エスキス) ①
28	基本設計と構法 (エスキス) ②
29	模型制作計画 (エスキス) ①
30	模型制作計画 (エスキス) ②

3 1	模型制作作業
3 2	模型制作続き
3 3	設計課題講評①
3 4	設計課題講評②
3 5	設計課題講評③
3 6	講義総括

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0604	科目名	建築積算	科目区分	兼任
科目群	建築生産	担当講師	原 弘光	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	4
教科書	建築数量積算基準		教材・参考書 積算テキスト・種積算資料		
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。				

1. 授業概要

建築数量積算基準と例題の解説および演習を行うことで、建築価額の内容や構成などを学ぶ。

2. 到達目標

数量積算技術の算出方法の基礎の修得する。

後期

1	授業概要説明
2	積算概論① 定義、役割、業務の説明。総則の説明
3	直接仮設① 基準の解説、用語の説明
4	直接仮設② 計測・計算、例題の説明
5	土工地業① 基準の解説、用語の説明
6	土工地業② 基準の解説、用語の説明
7	土工地業③ 計測・計算、例題の説明
8	直接仮設・土工地業のまとめ
9	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
10	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
11	鉄筋① 基準の解説、基準の解説、用語の説明
12	鉄筋② 基準の解説、基準の解説、用語の説明
13	鉄筋③ 基準の解説、基準の解説、用語の説明
14	コンクリート型枠・鉄筋① 計測・計算、例題の説明
15	コンクリート型枠・鉄筋② 計測・計算、例題の説明
16	コンクリート型枠・鉄筋③ 計測・計算、例題の説明
17	問題演習（1）
18	問題演習（2）
19	オリエンテーション 後半授業概要
20	鉄骨① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
21	鉄骨② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
22	鉄骨③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
23	鉄骨④ 計測・計算、用語の説明
24	仕上① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
25	仕上② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
26	仕上③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
27	仕上④ 計測・計算、例題の説明
28	仕上⑤ 計測・計算、例題の説明
29	鉄骨・仕上のまとめ
30	改修① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
31	改修② 基準の解説、計測・計算、用語の説明

3 2	内訳書① 作成、単価（刊行物記載確認）
3 3	内訳書② 作成、単価（刊行物記載確認）
3 4	内訳書③ まとめ
3 5	問題演習（1）
3 6	問題演習（2）

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0701	科目名	設計製図 I		科目区分	専任・実務経験教員	
科目群	設計製図	担当講師	星裕一郎・萩原 秀規 他		履修区分	実習	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	必修
教科書	超入門 建築製図			教材・参考書：プリント配布、必携建築資料			
成績評価	課題図面全提出による評価 100%						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RCの演習 その1 店舗
9	RCの演習 その1
10	RCの演習 その1
11	RCの演習 その1
12	課題－4：RCの演習 その2 住宅
13	RCの演習 その2
14	RCの演習 その2
15	課題－5：RCカフェの設計 その1
16	RCカフェの設計 その1
17	RCカフェの設計 その1
18	RCカフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2
7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2

10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2
12	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
13	木造住宅兼店舗の設計
14	木造住宅兼店舗の設計
15	木造住宅兼店舗の設計
16	木造住宅兼店舗の設計
17	木造住宅兼店舗の設計
18	木造住宅兼店舗の設計

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学 科 名	建築科		
科目番号	0702	科 目 名	設計製図Ⅱ		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	設計製図	担当講師	牟禮 智恵子・藤田 修司・萩原秀規		履修区分	実習	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築製図		教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌				
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

### 1. 授業概要

課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

### 2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。

### 3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む(集合住宅)」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	エスキスチェック
6	エスキスチェック
7	中間発表
8	プレゼンテーション準備
9	作図1(平面図・断面図・立面図)
10	作図2(平面図・断面図・立面図)
11	作図3(平面図・断面図・立面図)
12	作図4(まとめ)
13	プレゼンテーション準備1(作図、模型製作など)
14	プレゼンテーション準備2(作図、模型製作など)
15	プレゼンテーション準備3(作図、模型製作など)
16	プレゼンテーション準備4(作図、模型製作など)
17	プレゼンテーション準備5(作図、模型製作など)
18	発表

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0703	科目名	CAD I		科目区分	兼任	
科目群	設計製図	担当講師	小島善文・伊東達三		履修区分	選択必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教科書	CAD リテラシー演習 (A&A)		教材・参考書：				
成績評価	教科書課題提出と理解度、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

VWを使って、教科書の各課題の解説・実習を行い、CADの初歩的な使い方・目的を理解する。

2. 到達目標

今後に、CADをデザインツールとして使って行くための、基本的な理解を高める。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション (授業概要・教科書の使い方/表記/構成 について)
2	第1章 作図の基礎
3	第1章 作図の基礎
4	第1章 作図の基礎 (チャレンジ課題)
5	第2章 製図の基礎
6	第2章 製図の基礎
7	第2章 製図の基礎 (チャレンジ課題)
8	第3章 効率的な作図
9	第3章 効率的な作図
10	第3章 効率的な作図 (チャレンジ課題)
11	第4章 3Dモデリング
12	第4章 3Dモデリング
13	第4章 3Dモデリング (チャレンジ課題)
14	CAD高等ドリル
15	CAD高等ドリル
16	CAD高等ドリル
17	CAD高等ドリル
18	授業まとめ



科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0704	科目名	CADⅡ (AutoCAD)	科目区分	兼任
科目群	設計製図	担当講師	安松一雄	履修区分	実習
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教科書	できる AutoCAD2019		参考書	配布プリント	
成績評価	課題演習と出席を総合的に評価する				

1. 授業概要

業界でスタンダードになっている AutoCAD の基本操作を習得する
------------------------------------

2. 到達目標

AutoCAD で図面作成に必要な基本操作を習得する。BIM の概念を簡単なモデリングをすることで理解する。
--

3. 授業計画

1	画面構成
2	基本操作
3	各種設定
4	ツール
5	作成
6	修正
7	寸法
8	ダイナミックブロック
9	図面レイアウト
10	製図の手順
11	建築図面作成
12	建築図面作成
13	建築図面作成
14	建築図面作成・BIM 概論
15	BIM (ArchiCAD) 演習 1
16	BIM (ArchiCAD) 演習 2
17	BIM (ArchiCAD) 演習 3
18	BIM (ArchiCAD) 演習 4

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0704	科目名	CADⅡ (VW CAD)	科目区分	兼任
科目群	設計製図	担当講師	小島善文/伊東達三	履修区分	選択必修
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	2
教科書	10日でマスター! VECTORWORKS Ver. 2018/2017 対応		教材・参考書: 演習データ、補足課題・補足資料		
成績評価	毎回の課題と、授業の理解度で総合的に評価する。				

1. 授業概要

VectorWorks・RenderWorks の操作方法を学習し、図面作成・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。

2. 到達目標

2D/3Dの各種課題を通して、総合的な表現・操作が出来るようになる。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	2D 基本 01 VECTORWORKS の基本
3	2D 基本 02 2D 作図の基本(1)
4	2D 基本 03 2D 作図の基本(2)
5	2D 応用 04 2D 作図の応用(1)
6	2D 応用 04 2D 作図の応用(1)
7	2D 応用 05 2D 作図の応用(2)+2D 住宅作図
8	2D 応用 05 2D 作図の応用(2)+2D 住宅作図
9	3D 基本 06 3D モデリングの基本
10	3D 基本 06 3D モデリングの基本
11	3D 応用 07 建物のモデリング(2D/3D モデルの作成)+3D 住宅モデリング
12	3D 応用 07 建物のモデリング(2D/3D モデルの作成)+3D 住宅モデリング
13	3D 応用 08 レンダリングとテクスチャーマッピング
14	3D 応用 08 レンダリングとテクスチャーマッピング
15	3D 応用 09 カメラと光源
16	3D 応用 09 カメラと光源
17	2D/3D 10 プレゼンボードの作成
18	2D/3D 10 プレゼンボードの作成

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	0801	科目名	建築測量		科目区分	兼任	
科目群	実験実習	担当講師	関村啓太 大田真		履修区分	実習	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	なし			教材・参考書：プリント			
成績評価	測量成果の提出・内容、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

各測量の基礎的な知識と各種測量機器の取り扱いを理解する

2. 到達目標

測量機器の基本的な操作方法を修得する

3. 授業計画

後期	
1	授業概要説明・測量概要
2	水準測量1（基本・チルチングレベル）
3	水準測量1（基本・チルチングレベル）
4	水準測量2（基本・チルチングレベル・誤差調整法）
5	水準測量2（基本・チルチングレベル・誤差調整法）
6	水準測量3（応用・チルチングレベル）
7	水準測量3（応用・チルチングレベル）
8	平板測量1（トラバース測量）
9	平板測量1（トラバース測量）
10	平板測量2（細部測量）
11	平板測量2（細部測量）
12	角測量1（基本・トランシット・方向角の算出）
13	角測量1（基本・トランシット・方向角の算出）
14	角測量2（応用・トランシット・トラバース・面積計算）
15	角測量2（応用・トランシット・トラバース・面積計算）
16	（トータルステーションによる内角・距離測量）
17	（トータルステーションによる内角・距離測量）
18	レポート作成、まとめ

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0901	科目名	パースペクティブ	科目区分	専任 実務教員
科目群	造形基礎	担当講師	牟禮 智絵子・足立 真輝	履修区分	演習
開講学年	1年	開講学期	前期	単位数	4
教科書	基本・建築製図と表現方法		教材・参考書 プリント		
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

軸測投影法（アクソノメトリック）、透視図法（1消点透視法、2消点透視法）の表現方法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

### 2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

### 3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック1
5	軸測投影法（アクソノメトリック）・ブロック2
6	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体1
7	軸測投影法（アクソノメトリック）・立方体2
8	軸測投影法（アクソノメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
19	夏休み課題（講評会）
20	1消点透視法（パース）1
21	1消点透視法（パース）2
22	2消点透視法（パース）1
23	2消点透視法（パース）2
24	2消点透視法（課題）ビル
25	2消点透視法（課題）ビル
26	2消点透視法（課題）ビル
27	2消点透視法（課題）ビル
28	2消点透視法（課題）ビル（着彩）

29	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
30	2 消点透視法 (応用) 1
31	2 消点透視法 (応用) 2
32	2 消点透視法 (応用) 3
33	2 消点透視法 (応用) 4
34	簡易パースの演習 1
35	簡易パースの演習 2
36	消点透視法まとめ

## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	0902	科目名	プレゼンテーション技法	科目区分	兼任
科目群	造形基礎	担当講師	小島善文/伊東達三	履修区分	実習
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	1
教科書	10日でマスター！VECTORWORKS Ver. 2018/2017 対応		教材・参考書：各種課題資料・演習データ		
成績評価	毎回の課題と理解度を加味して総合的に評価する。				

### 1. 授業概要

VectorWorks/RenderWorks/Photoshop/Illustrator を使った基本的なプレゼンテーション方法を理解する。

### 2. 到達目標

図面作成や卒業設計に使用できるスキルを習得する。

### 3. 授業計画

後期	
1	授業概要説明
2	VW による 2D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋の作図)
3	VW による 2D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋の作図)
4	VW による 2D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋の作図・ハッチング・イメージほか)
5	VW による 2D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋の作図・ハッチング・イメージほか)
6	VW による 3D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋のモデリング)
7	VW による 3D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋のモデリング)
8	VW による 3D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋のモデリング)
9	RW による 3D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋のモデリング・テクスチャー・ライティングほか)
10	RW による 3D 課題 プレゼンテーション (住吉の長屋のモデリング・テクスチャー・ライティングほか)
11	フォトショップによる画像課題 画像加工
12	フォトショップによる画像課題 画像加工 (パース作成)
13	フォトショップによる画像課題 プレゼンテーション (落水荘)
14	フォトショップによる画像課題 プレゼンテーション (落水荘)
15	イラストレーターによる基本課題 図形・文字 加工
16	イラストレーターによる応用課題 図形・文字 加工・レイアウト
17	総合課題 CAD/フォトショップ/イラストレーター/模型を使ったプレゼンテーション
18	総合課題 CAD/フォトショップ/イラストレーター/模型を使ったプレゼンテーション

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	1001	科目名	現代建築論		科目区分	専任	
科目群	卒業制作	担当講師	星裕一郎		履修区分	必修	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	なし			教材・参考書			
成績評価	レポート90% 平常点や授業への貢献度10%						

1. 授業概要

現代建築の潮流と展望を、現在国内外で活躍する建築家像と彼らの作品群を通して考える。

2. 到達目標

学生達が自らの言葉で現代建築について論述することで、現代建築の潮流を概観する視点を育てる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス (講義概要説明)
2	伊東豊雄
3	妹島和世・西沢立衛 SANAA
4	Rem Koolhaas / O.M.A.
5	m.v.r.d.v
6	Herzog & de meuron
7	安藤忠雄
8	J.Pawson
9	青木淳
10	隈研吾
11	藤本壮介、五十嵐淳、長谷川剛
12	篠原一男、アトリエワン
13	Steven Holl、F.O.Gehry
14	Jean Nouvel、D.Perrault
15	Glenn Murcutt / Case Study House
16	構造家の仕事
17	都市
18	ランドスケープ

**科目の教育目標・授業計画 「2022年度」**

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	1002	科目名	卒業設計	科目区分	専任
科目群	卒業研修	担当講師	星 裕一郎	履修区分	実習
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	6
教科書	教材・参考書 プリント等				
成績評価	提出作品、プレゼンテーションなどの平常点を加味して総合的に評価する。				

**1. 授業概要**

これまで学んだ計画論、設計手法、製図方法に基づき、自身で設定した課題を作品としてまとめ上げる実践的能力を学ぶ。

**2. 到達目標**

自身で設定した課題について事例調査・研究を行い、構想をまとめ作品として表現し、発表まで行える能力を修得する。

**3. 授業計画**

後期	
1	オリエンテーション
2	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
3	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
4	基本条件の決定（敷地／建築用途／類似建物）
5	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
6	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
7	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
8	中間発表
9	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
10	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
11	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）・中間提出
12	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
13	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
14	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
15	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
16	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
17	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
18	卒業設計発表会



## 科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	1201	科目名	インテリア計画演習	科目区分	兼任
科目群	特別講座	担当講師	益田あけみ	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2
教科書	インテリア計画の知識		教材・参考書		
成績評価	授業での演習課題を総合的に評価する				

### 1. 授業概要

1年で学んだ知識を再確認しながら、実際のインテリア計画への応用演習を行い、イメージをまとめる能力を養う。

### 2. 到達目標

条件を読み取って、空間をイメージし、平面図、展開図や天井伏せ図、パース等への表現方法を修得する。

### 3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	寸法計画の復習 課題1、ダイニングスペース 平面図、展開図4面、天井伏せ図、スケッチ
3	課題2、インテリアコーディネーター2次試験の課題例（リビングダイニングスペース計画）
4	課題2、作業続き
5	課題3-1、文章から建物をイメージする（小さなゲストハウス平面図）
6	課題3-2、条件にあわせて、ゲストハウス計画
7	課題3-2、作業続き（外構、屋根、立面計画含む）
8	課題4-1、木造2階建住宅のプランパターン
9	課題4-2、木造2階建住宅の新築計画
10	課題4-2、作業続き（外構、屋根計画含む）
11	課題5、木造2階建て2世帯住宅の改装計画
12	課題5、作業続き
13	課題6、木造平屋住宅の改装計画
14	課題6、作業続き
15	課題7、カウンター席のある飲食店計
16	課題7、作業続き
17	全体のまとめ
18	各課題の講評、プラン例紹介

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	1202	科目名	資格講座(1) インテリアコーディネーター		科目区分	兼任	
科目群	特別講座	担当講師	安松 一雄		履修区分	講義	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	3	授業形態	選択
教科書	インテリアコーディネーター試験テキスト		教材・参考書：過去問題				
成績評価	資格試験の結果、及び平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

インテリアコーディネーターに必要な知識を学ぶ。

2. 到達目標

インテリアコーディネーター試験レベルの知識を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	第1章 ICの誕生とその背景 第2章 ICの仕事
2	第3章 インテリアの歴史_1
3	履修範囲の過去問演習
4	第3章 インテリアの歴史_2
5	第4章 インテリアコーディネーションの計画_1
6	履修範囲の過去問演習
7	第4章 インテリアコーディネーションの計画_2
8	第4章 インテリアコーディネーションの計画_3
9	履修範囲の過去問演習
10	第5章 インテリアエレメント・関連エレメント_1
11	第5章 インテリアエレメント・関連エレメント_2
12	履修範囲の過去問演習
13	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ_1
14	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ_2
15	履修範囲の過去問演習
16	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ_3
17	第6章 インテリアの構造・構法と仕上げ_4
18	履修範囲の過去問演習
19	第7章 環境と設備_1
20	第7章 環境と設備_2
21	履修範囲の過去問演習
22	第7章 環境と設備_3
23	第9章 インテリア関連の法規、規格、制度_1
24	履修範囲の過去問演習
25	第9章 インテリア関連の法規、規格、制度_2
26	第8章 インテリアコーディネーションの表現
27	履修範囲の過去問演習 模擬試験

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」				学科名	建築科
科目番号	1202	科目名	資格講座(1) 2級建築施工管理検定	科目区分	専任
科目群	特別講座	担当講師	関村 啓太	履修区分	講義
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	3
教科書	『2級建築施工管理技士第一次検定テキスト』(総合資格学院) 『2級建築施工管理技士第一次検定・第二次検定問題解説』(総合資格学院)		教材・参考書：配布資料 (一社)日本建設業連合会編 『施工がわかるイラスト建築生産入門』 彰国社		
成績評価	平常点および2級建築施工管理検定1次試験結果による				

1. 授業概要

2級建築施工管理検定1次試験の試験対策を通じて建築施工の知識について学ぶ、

2. 到達目標

2級建築施工管理検定1次試験に合格する程度の知識を理解する。

3. 授業計画

1	環境工学
2	各種構造
3	確認テスト①
4	構造力学
5	施工共通
6	確認テスト②
7	躯体工事①
8	躯体工事②
9	確認テスト③
10	躯体工事③
11	躯体工事④
12	確認テスト④
13	仕上工事①
14	仕上工事②
15	確認テスト⑤
16	仕上工事③
17	法規
18	確認テスト⑥
19	施工管理
20	確認テスト
21	総合答練演習
22	問題演習① 過去問題の演習と解説
23	問題演習② 過去問題の演習と解説
24	問題演習③ 過去問題の演習と解説
25	問題演習④ 過去問題の演習と解説
26	問題演習⑤ 過去問題の演習と解説
27	問題演習⑥ 過去問題の演習と解説

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」

科目の教育目標・授業計画 「2022年度」					学科名	建築科	
科目番号	1203	科目名	資格講座(2)		科目区分	専任	
科目群	特別講座	担当講師	関村 啓太		履修区分	選択	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	座学
教科書	なし			教材・参考書：なし			
成績評価	確認試験による						

1. 授業概要

二級建築士の出題傾向を解説し、過去問題を解かせ理解を深める。
--------------------------------

2. 到達目標

二級建築士受験のための知識を習得し、試験合格を目指す。
-----------------------------

3. 授業計画

後期	
1	計画① 環境工学（空気、熱、光、音、色彩）
2	計画② 建築設備（空気調和設備、吸水設備）
3	計画③ 建築設備（排水・衛生設備、電気照明設備）
4	計画④ 計画各論（住宅、商業建築、文化施設）
5	計画⑤ 計画各論（教育施設、医療施設、各部計画）
6	計画⑥ 建築史
7	構造① 力のつり合い、反力、応力
8	構造② トラス、断面の性質、座屈、応力度
9	構造③ 荷重・外力、構造計画
10	構造④ 木造
11	構造⑤ 鉄筋コンクリート造、鉄骨造
12	構造⑥ 建築材料
13	法規① 用語の定義、確認申請、面積・高さ
14	法規② 一般構造、耐火・防火
15	法規③ 防火地域、防火区画、避難施設、内装制限
16	法規④ 構造計算・構造強度
17	法規⑤ 道路、用途地域、
18	法規⑥ 建蔽率、容積率、高さ制限、その他法令
19	施工① 契約・計画・管理
20	施工② 仮設工事、地盤工事・土工事・基礎工事
21	施工③ 鉄筋工事、型枠工事
22	施工④ コンクリート工事、鉄骨工事
23	施工⑤ 防水工事、左官工事、タイル工事、内装工事
24	施工⑥ その他工事
25	演習① 過去問題の演習と解説
26	演習② 過去問題の演習と解説
27	演習③ 過去問題の演習と解説